

透析医のひとりごと

「医療・介護改革と透析医療」 江尻一成

日常の業務から逃れ、国際映画祭で有名なサン・セバスチャンに来ました。スペインバスク州のビスケー湾に面した美しい観光都市、サン・セバスチャンは、1982年にバスク語とスペイン語の2言語の名称、ドノステア＝サン・セバスチャンに改名され、「ビスケー湾の真珠」、「カンタブリア海の真珠」と称され、スペインで最も著名な観光地の一つです。フランス国境に接しているこの小都市は、人口約18万人の街なのにミシュランガイドブックに17軒掲載され、三ツ星レストランも3軒を数え、さらに世界一に選ばれたレストランがあることなど魅力たっぷりの街です。

神戸・元町にサン・セバスチャンのエチュバリというレストランで修業をしたシェフがいる店があり、そこで食事をしてからますます魅力を感じ、現地に行きたいという衝動に駆られ、サン・セバスチャン在住のバスク美食倶楽部の日本の方を紹介して頂きました。

関西空港から香港経由でロンドン・ヒースロー空港まで行き、さらにマドリッドで国内線に乗り継いでようやくサン・セバスチャンに辿り着きます。飛行機の窓からは、スペインからフランスに連なるカンタブリア海の海岸線が非常に魅力的で、景色に見入っていると到着しました。ガイドの日本の方の出迎えを受け、夕食前にもかかわらず早速、近くのパールでタパスとシードル（バスク伝統のリンゴ発泡酒）で歓待を受けました。その後2日間にわたって昼夜の美食に酔いしれながら魅力的な街と食事を楽しみました。

早朝の静けさの中、浜辺のホテルの一室で波音を聞きながら、原稿の構想を練るために、あれこれと思い巡らせ、執筆を開始しました。日本では連日スケジュールに追われた日々を過ごしていたので、なかなか書く意欲が湧かず、ずるずると時間のみが経過していましたが、美しいラ・コンチャ湾を眺めていると、自然にパソコンの前に書き始めていました。

今年は4年に1回の医学学会総会が京都をはじめ、2府4県が協同で「オール関西」として開催されました。小生も内科学会総会と産業医の資格継続講習を兼ねて参加してきましたが、京都は花見の時期とも重なり、さらに海外からの旅行客も大勢集まり、京都中ごった返していました。「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」をメインテーマに、今日の社会が直面する20の課題について議論され、プログラムを拝見しますとどれも興味あるテーマで、先進医療から医療・介護現場の苦悩までを網羅していたように思います。

わが国は医療・介護改革のまっただ中です。今年からは地域医療構想が本格的に動き出し、まず公立病院改革から進んでいくようです。施設サービスから通所・在宅への誘導が叫ばれて数年が経過しましたが、

遅々として進まなかったことがまさにダイナミックに動き出そうとしています。透析医療は、従来から通所治療を基本としており、寝たきりの重症の患者や認知症患者への対策はこれからです。以前から高額医療といわれ続けてきたことが、反って改革の先頭集団にいるようにさえ思われますが、まだまだ十分とは言えません。CKD対策のまっただ中にあり、腎臓専門医はもとより、今や循環器・糖尿病を中心に様々な分野の研究者がCKDに対する研究が進行しつつあります。

透析診療が高額医療だと言われ続けて数10年、今でも医師会で会う先生方から口癖のように医療費の使いすぎと言われることがあります。確かに一人の透析患者さんの月間医療費は30~40万円で、高額です。糸球体腎炎由来の腎不全が大多数を占めていた頃なら、医療費の大部分が腎疾患によるものと思われても仕方なかったでしょう。しかしながら糖尿病や高血圧症由来の腎不全患者さんが大多数を占める昨今、原疾患や合併症の治療にかなりの費用が割かれているのも事実ではないでしょうか？

昭和42年からの血液透析療法のみをまとめた診療報酬の推移が掲載されている冊子を参考にして診療報酬の推移を調べてみました。人工腎臓技術料は昭和42年から増加の一途でしたが、透析医療材料費は昭和56年をピークに診療報酬改定毎にほぼ減額されてきました。平成4年から慢性維持透析患者外来医学管理料が新設され、さらに検査費用の包括化が開始されました。平成8年からは透析液・抗凝固薬・生食なども技術料に含まれました。平成18年からはエリスロポエチン製剤も外来透析では包括化され、代わりに技術料が290点加点されました。その結果、平成27年4月現在、V型ダイアライザーを使用して4時間の透析を行った場合、1回あたりの技術料はおおよそ2,390点で、月13回の透析療法を行いますと31,070点となっています。

透析療法は、以前から包括化が進み、かなりわかりやすくなっています。診療報酬改定の度に透析診療は減額されてきましたが、様々な努力・工夫をして技術・安全を損なうことなく今日に至っています。これこそ透析医療を守ってきた証ではないでしょうか。今後、医療・介護力を支えるマンパワー不足が予測されます。CKDの重症度対策をしっかりと行い、合併症を減らす工夫をすることによって、新たな腎不全患者の発生を減らすための努力が一層必要になってくるのではと思われます。しかし、これまでもそうであったように、透析医会の会員の皆さんの創意工夫で乗り切れるのではないかと思います。思いながら早朝の海岸の景色を楽しんでいます。

遠く、サン・セバスチャン、ラ・コンチャ湾の海岸沿いのホテルの一室にて
2015年5月4日、波音を聞きながら。

城陽江尻病院（兵庫県）